Learning Center
MINAMISANRIKU

# ANNUAL REPORT 2014

一般社団法人南三陸研修センター 2014年度年次報告書

# ANNUAL REPORT 2014

一般社団法人南三陸研修センター
2014年度　年次報告書

## コーポレートカラー・ロゴが決定しました

南三陸研修センター（＝南三陸ラーニングセンター）は、これまで以上に積極的に、大学生及び若手社会人、そして地域の方々へ「学び」を提供していく決意として、コーポレートカラーとロゴを設定致しました。

Learning Center
MINAMISANRIKU

「自身の揺ぎない『信念』を見つけて欲しい」との思いを稲穂の色を用い表現しました

## CONTENTS


02　ご挨拶
03　養老孟司名誉センター長インタビュー
04　ビジョン・ミッション・ミッションディティール
05　組織体制・歩み
06　事業報告　事業ドメイン
07　事業報告　研修プログラム
08　事業報告　宿泊研修施設、地域づくり
09　事業報告　地域資源の開発、智の収集・保存
10　皆さまとともに
11　財務報告・寄付者一覧


ご挨拶
## MESSAGE

南三陸研修センター 代表理事　勝崎裕彦

東日本大震災から４年が経ちました。

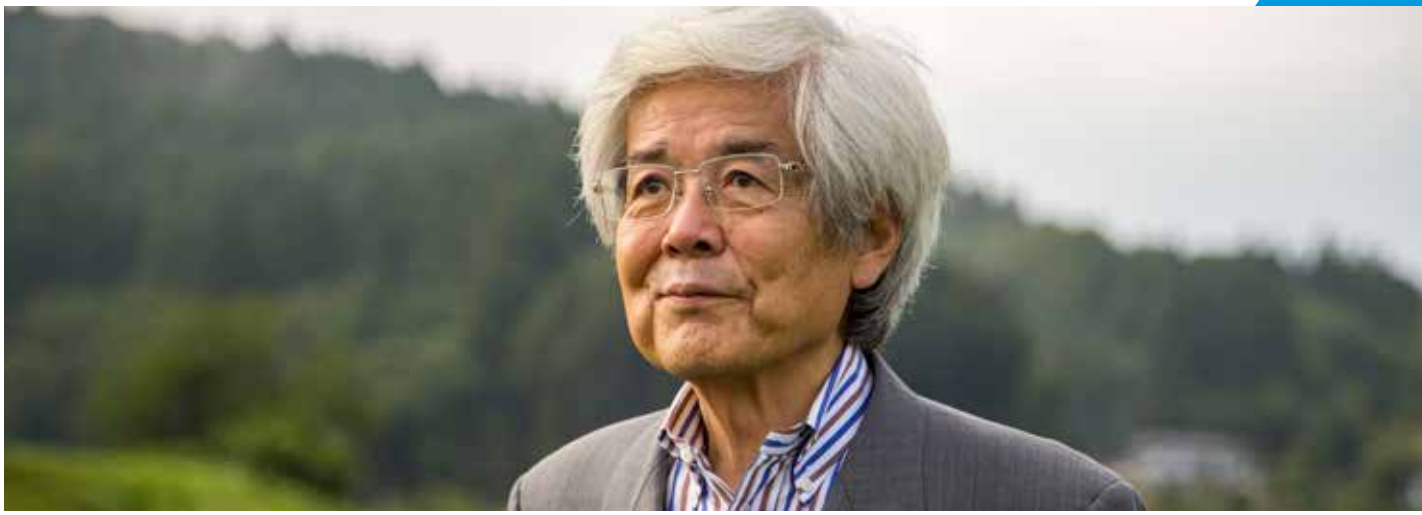
刻一刻と状況が変化する現地から、学生に何を学び取ってもらえるのか。また、地域にどんな価値をもたらすことができるのか。日々試行錯誤と自問自答を繰り返しながら活動を続けてきました。理想とする頂までの道のりは長いですが、着実に歩みを進めています。

さてこの度、設立から２年目となる2014年度の活動をご報告するために、年次報告書を作成致しました。ここに至るまでには多くの方の助けがありました。「南三陸まなびの里いりやど」の建設に際し援助をいただいた寄付者の方々、日々の研修プログラムを支えてくださっている南三陸町の方々、そして研修センターを利用してくださっている大学・企業の方々・・・と、枚挙に暇がありません。

ここに、今までご支援いただいた方々に感謝の意を表するとともに、私たちが目指すものを再び社会に宣言したいと思います。今後とも、皆様の深いご理解と温かいご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

インタビュー

# INTERVIEW



養老孟司 Takeshi Yoro
昭和 12 年鎌倉生まれ。東京大学医学部卒業。医学博士。東京大学医学部教授、北里大学教授を歴任。現在東京大学名誉教授。大正大学客員教授（大正大学地域構想研究所特別顧問）
「からだの見方」（筑摩書房）でサントリー学芸賞受賞。「バカの壁」（新潮社）で毎日出版文化賞受賞。
京都国際マンガミュージアム館長。
一般社団法人南三陸研修センター名誉センター長。

## 養老孟司名誉センター長　「南三陸研修センターの社会的役割･意義」

**ー今日は南三陸研修センターの名誉センター長である養老孟司先生にお話を伺いたいと思います。南三陸にこういった若い人が集って学ぶ研修施設がある意義とはどういったものでしょうか。**

学校というのは教室行って話聞いてというイメージがありますが、その手の学校というのはかなり時代遅れだという気がします。今まで大きな教育システムを作り上げ、その中でやってればなんとかなるだろうと。それでいけないという話ではないのですが、実際に必要なのはそういうものではないという気がします。僕も大学に長いこといましたけど、多少でもものの役に立つということを学んだとしたら、必ずしも教室じゃない。魚捕って米作ってどうこうしてって、今は知らなくても買えばいい、買うためには金を稼げればいいって話だけど必ずしもそうはいかない。魚捕りだって牡蠣の養殖だって田んぼ作るのだって、結局はやってみなきゃ分からない。それをやらなくても済むというのは間違ってると思うんです。ものを理解するってそういうことを含んでいる。それは教室でビデオや先生の話で学べるかと言うと、実は落ちることがたくさんあると思うんです。

今若い人は何してるかと言うと、ほとんどスマホと PC の画面見てる。学ぶって何だろう、ってもう一度考え直したほうがいい。ですから大学がこういうところを作って南三陸に学生を呼んで「お前ら何か考えな」、端的にいうと「まず身体動かせ」というところから始めたら、というのは非常に意味があると思うんです。そこから学ぶことで大事なことは、言葉にならないということ。説明してもできないことがたくさんあります。

もう一つ大事なのは自分の身体。身体の使い方は日本には伝統的にあって所作と言うんだけど、それを教えてるのが「道」とついてる茶道とか華道とか。

お坊さんが寺を箒で掃くってことは、寺をきれいにしてるだけじゃない。身体の使い方でしょ。天気でも季節でも毎日違う、そういうのに身体を使うということを上手に合わせていく。それが修行ですよね。でもそういう感覚今はないんじゃないかな。オリンピック型になっちゃって、良い若い者が目を釣り上げて 100 m必死で走ってる。それとお坊さんが箒で掃いてるのと、身体の修練という意味では同じことですよ。

訓練と言うか、身体で覚えたことってすごく役に立つ。どこに行ってもそういう動きが出ちゃいますからね。だから、こういう新しいものができればなんでも新しいことを、と思うのが僕らが育って生きてきた時代だったんですが、それってもっとずっと人が生きてきたものに結びついているわけで。そうしてやっていくことが結局長持ちすることでもある気がするんですね。

団体概要

# OVERVIEW

## 南三陸研修センターの活動理念と組織体制、設立からの歩みをご紹介します。

### VISION

未来を創る人を育む

### MISSION

私たちは、
地域が誇りを持ち、
若い世代が未来に希望を持つ
「新しい社会」を、
ここ南三陸から実現していきます。

### MISSION DETAIL

山と海と里が密接に繋がる希有な自然環境。
連綿と続いてきた人々の営み。
震災を経て、この町で立ち上がろうとする人々の生き様。
そして、この地に結集する多種多様な人とのつながり。

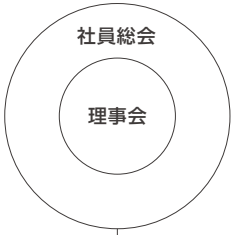
それらの中に、
南三陸から伝えられる「新しい価値」があります。

私たちは、
「新しい価値」を若い世代に伝えることで、
「新しい未来」を創造していく手助けをします。

私たちは、
「新しい価値」をこの地に生きる人々が再認識し、
誇りを持てる地域づくりを手助けします。

その使命が、私たちにはあります。

## 組織体制（2014 年度時点）




| 役職 | 氏名 |
|---|---|
| 代表理事 | 勝崎 裕彦 |
| 理事 | 柏木 正博 |
| 理事 | 石田 順子 |
| 理事 | 阿部 博之 |
| 理事 | 高橋 修 |
| 監事 | 鈴木 清美 |
| 監事 | 遠藤 義安 |

**事務局**

### 地域振興・研修チーム

研修プログラムや地域振興事業の企画・実施、情報発信等を行います。

### 業務課

宿泊施設の管理・運営業務を行います。

### 総務課

法人事務全般を行います。

## 歩み

### 東北再生「私大ネット 36」とは

私大ネット 36 とは、全国 26 大学（2014 年度現在）のネットワーク組織です。
毎夏・春休みに南三陸まなびの里いりやどを拠点としてスタディーツアーを行っています。

### 地域構想研究所とは

大正大学の新たな使命として学術的な英知を集め、現代の日本における地域創生・地域課題解決のための研究機関として 2014 年に設立しました。

**2011**

- 3月11日　東日本大震災発生
- 4月8日　大正大学がボランティア派遣を実施

**2012**

- 6月20日　一般社団法人南三陸研修センター　設立
- 9月　私大ネット36　スタディーツアー実施

**2013**

- 3月18日　南三陸まなびの里いりやど　オープン
- 3月　私大ネット36　スタディーツアー実施
- 6月　グランマの森構想スタート
- 8～9月　私大ネット36

**2014**

- 2～3月　私大ネット36　スタディーツアー実施
- 8～9月　私大ネット36　スタディーツアー実施
- 10月　大正大学地域構想研究所設立

**2015**

- 2～3月　私大ネット36　スタディーツアー実施
- 4月　大正大学地域構想研究所　南三陸支局開設

活動報告

# ACTIVITY

## 5つの事業ドメインに沿って、活動をご報告します。

**2014年度 概況**

震災から３年が経ち、「復興期」から「発展期」へと、町のフェーズは移行しようとしています。2014年８月には仮設住宅から災害公営住宅への入居が始まりました。2015年４月末までに、防集団地28団地中20団地が完成しています。町内のかさ上げが進行し、日に日に町の姿が変わっています。

震災復興計画の、「なりわいと賑わいのまちづくり」が目標の一つに位置づけられており、町内の交流事業者間の連携も活発化してきています。そうした中、当法人は設立２年目を迎え、地域のハブとしての役割を強く意識するようになりました。町内団体との連携を活かし、また全国の大学・企業等とのつながりを糧にして、さらなる町の復興を後押しします。

## 事業ドメイン

### 南三陸研修センター（＝南三陸ラーニングセンター）

若い世代に「新しい価値」を伝える**研修プログラム**の企画・提供

大学生や若手社会人に向けた研修プログラムを企画・提供します。震災の教訓や、豊かな自然環境、そして様々な人との出会いを通し、若い世代が新しい価値に気づき、次の一歩を踏み出す手助けをします。

**宿泊研修施設**の運営

宿泊研修施設「南三陸まなびの里いりやど」を運営します。大学・企業等の研修に使いやすい設備・サービスを提供し、持続的な経営を行っていきます。

住民一人一人が学び、活躍し、誇りを持てる**地域づくり**

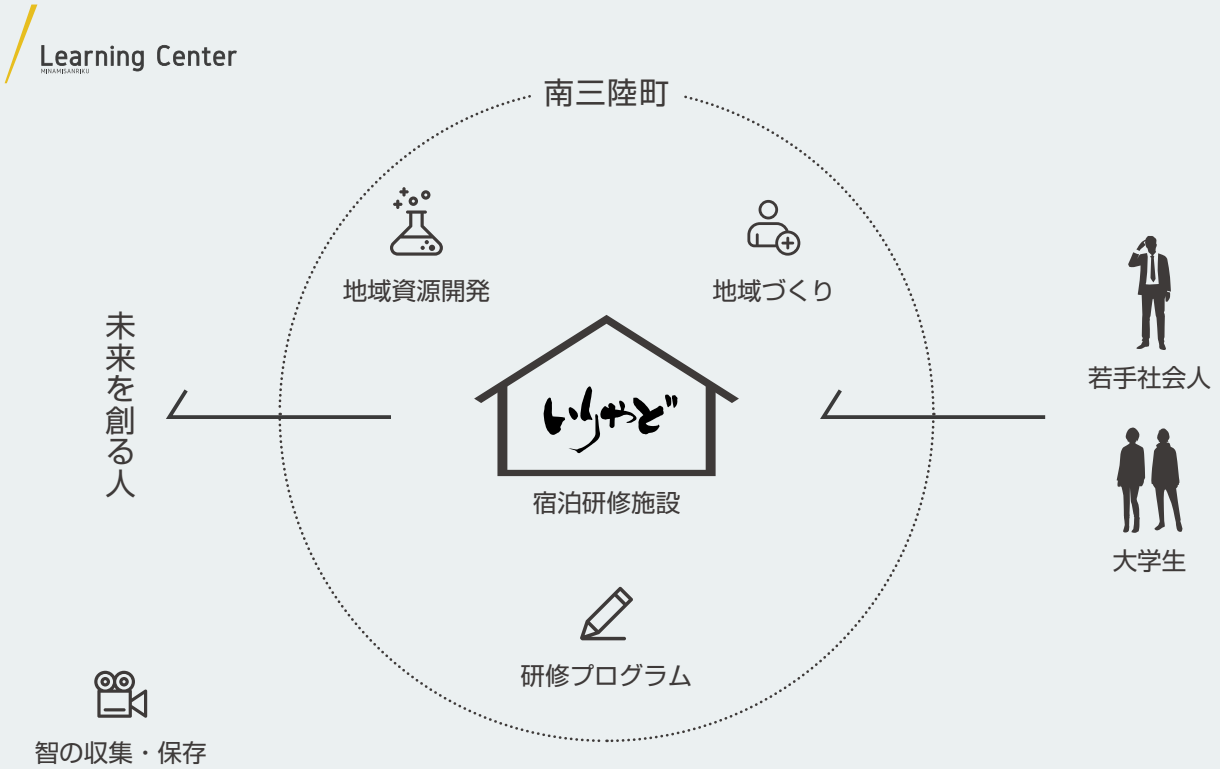
地域住民が学び、活躍する場を創出し、誇りをもって暮らせる地域づくりに取り組みます。住民一人ひとりが高めあい、つながりの中で自らの役割を見いだせる町を目指します。

地域と、大学・企業等の交流による、新たな**地域資源の開発**

地域の事業者と、全国の大学・企業等がつながり商品開発や人材育成等において新たな価値を生み出す拠点となることを目指します。

南三陸の今を伝えるための情報発信と**智の収集・保存**

震災によりマイナスからのスタートとなったこの町が、課題に挑み、歩んでいく過程をこれからの社会に活かしていくため、情報発信と智の収集・保存を行います。



## 若い世代に「新しい価値」を伝える**研修プログラム**の企画・提供

**研修プログラムの企画・提供**

大学生のキャリア教育向け研修プログラム「what do you work for?」を企画し、その教材として、南三陸で働く若い世代へのインタビュー動画を制作しました。

町内視察プログラム用に教材（地図）を刷新しました。ゲーム性のある研修プログラムとして、「南三陸トレイル」を開発しました。ヒントを読み解いていく中で地域の食材を見つけ、最後にバーベキューを行うことで、地域の豊かさに気づき、チームビルディングや食育にもつなげられるプログラムとなりました。2014 年度年度は 2 団体に向け提供しました。従来の「元気人訪問」のプログラムを、研修動画「what would you do?」を用いた座談会形式の研修プログラムとして確立しました。

**研修・ボランティアのコーディネート支援**

企業のコーディネートでは、昨年に引き続き ANA、キリン、レンドリース・ジャパン等多くの研修・ボランティアを受け入れました。大学関連の研修では、私大ネット 36（夏季 4 期、春季 4 期）を始め、各団体のニーズに合わせたコーディネート支援を行いました。大学関連のボランティアでは、村祭りの前々夜祭として子ども向けに開催した宵まつり（大正大学表現学部）、お茶会と茶道体験教室（大正大学茶道部）、子ども向けスポーツ大会（大正大学ボランティア系サークル合同企画）、災害公営住宅での足湯（私大ネット 36）等のコーディネートを行いました。

## **宿泊研修施設**の運営

立教女学院の支援により、敷地内にログハウス「くつろぐはうす」が完成し、施設管理を行うようになりました。主に、障がい児支援を行う地元 NPO の活動拠点として利用されています。

また、地元の地域づくり団体「入谷グリーンウェーブ構想促進委員会」と共同で、入谷地区の 4 施設（YES 工房、さんさん館、ひころの里、いりやど）の広報のためのポスター２種を制作しました。

## 住民一人一人が学び、活躍し、誇りを持てる**地域づくり**

**住民が集い学ぶ勉強会やイベントの実施**

入谷公民館主催、日本自然保護協会と研修センターの共催で 2013 年より実施している「地域を学ぶ勉強会」を 6 回行いました。「食と農」をテーマに、毎回地域の高齢者をゲストとして招き、昔の暮らしや地域の様子についてお話を伺いました。あらためて地域を見つめ、語り合う機会となっています。地域にも浸透し、多い時には 80 名もの参加者でした。また、童子山でのハイキングや、各家庭のおかずを持ち寄る夕食会も実施しました。

**研修プログラムの講師となる人材の育成**

2013 年に引き続き、町内視察の案内人の勉強会を開催しました。役場の企画課の方を招き、今後の市街地の復興計画について学びました。また、町内にある「まちづくり情報センター」を訪れ、模型やパネルを見ながら、外から来た人にどのように説明すれば伝わりやすいか考えました。

## 地域と、大学・企業等の交流による、新たな**地域資源の開発**

**企業との連携**

Google の事業「イノベーション東北」のサポーターである株式会社カヤックの協力を得て、スマートフォンアプリ「南三陸てくてくMAP」を制作しました。撮影した写真をコメント付きで地図上に投稿できるというもので、Android と iPad 用のアプリとして一般向けに公開しています。学生がフィールドワークをする際のツールとしても役立てています。

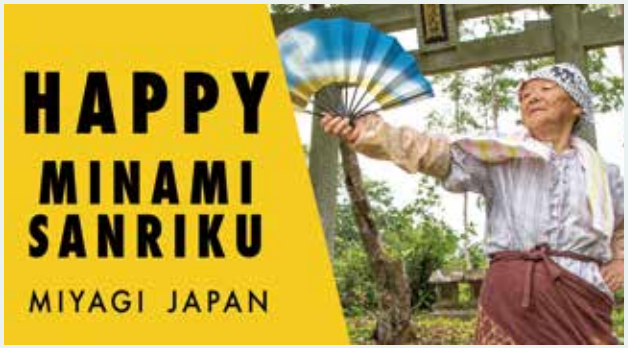
**地域の担い手となる人材の育成**

若者を地域の担い手として活用していく取り組みとして、大学生インターンを 4 名受け入れました。それぞれ 2 週間から 3 週間の期間で、研修の補助や、自分の興味のある事業に取り組んでもらいました。インターン生の働きを見て、研修に来た学生が自分もやりたいと申し出るなど、良いサイクルができつつあります。

## 南三陸の今を伝えるための情報発信と**智の収集・保存**

「南三陸おらほの学園祭」との共同企画で、動画「南三陸 HAPPY」を制作しました。メディア取材や、講演・イベントで流したいという要望も多数受けており、南三陸を PR するのに貢献しています。

「地域を学ぶ勉強会」や外部団体の主催の講演、入谷打ち囃の様子等、映像で記録しストックしています。また、NPO 法人オールラウンドヘリコプターの協力のもと、南三陸町上空からの空撮も実施し、復興途中の町の姿を収めました。



皆様の声

# PARTNER'S COMMENT

## 研修センター、そして地域に寄り添い、歩みを共にしてくださっている皆様からのコメントです。

キリン株式会社
佐竹 健次さん

キリングループは2013年の夏以来、従業員ボランティアの宿泊拠点としていりやどさんにお世話になっております。従業員が地域の方々との交流を通して震災当時の様子を知り、復興から未来へのフェーズにおいて、一人ひとりができることを語り合う貴重な場となっています。多くの気づきの場を提供していただいていることに感謝し、これからもキリングループは南三陸町をはじめとする被災地の皆さんと共に歩んでいきたいと思います。

國學院大學
加藤 季夫さん

國學院大學も私大ネット３６の一員として、南三陸町においてボランティア活動をスタートさせました。この活動による学生たちの人間としての成長を引率者として実感していますが、それは南三陸研修センターのさまざまなサポート、特にスタッフの方々の誠実さと笑顔によるものが大きいといえます。
南三陸研修センターが学生たちの学びの場、人間形成の場として、今後とも重要な位置を占めていくものと確信しています。

学校法人聖母女学院
廣岡 将人さん

何か手伝えないかと何度も東北に足を運んだ前理事長と現理事長の直観と、全くの「縁」で生まれたこの交流。地元の復興や我々の受け入れのために知恵を絞り、体を張って運営努力されるスタッフの皆さん。学習や活動で疲れた我々を癒してくれる美味しい料理。過剰さもなく、本音で、相子で切磋琢磨できるこの清潔な雰囲気。
そしていつも結局、私たちが元気をもらって帰る。ここは活動ベースであり心のベース。この存在に心から感謝。

大正大学人間学部４年生
小林 俊暁さん

大学生である私が南三陸に行く大きな理由は、学びがあるからである。宿泊するだけならば他の民宿でも代替可能であるが、いりやどは研修施設が整っており学びを深めることが出来る。学んだこと、感じたことをその場で共有できることは、学ぶにあたってポイントになってくると考える。まなびの里いりやどという名前が的確に表されていると感じる。また、おいしい食事にきれいな宿泊施設は、学びを充実させるためには大切になってくるだろう。

一般社団法人南三陸町観光協会
及川 和人さん

町内入谷地区にセンターがあることで、地区の研修プログラムを地域外に発信する窓口機能を果たしています。また全国各地から多様な考えを持つ大学生が訪問することで地域の方々もそれに触れる機会を多く持ちます。これにより、訪問者が学ぶだけでなく、地域の方が自分たちの地域を知り、学ぶ機会を提供していることになります。
当協会では共に地域の中に入り込み、交流事業の促進、そして地域課題解決に立ち向かっていきたいと思っています。

南三陸町漁師の番屋
村岡 賢一さん

早いもので震災から４年が過ぎ、被災地も全国の多くの方々の支援によって少しずつ元気を取り戻しつつあります。私は漁業の傍ら主に子供達を中心に、南三陸町の豊かな自然に恵まれた漁業の体験活動を指導して来ました。震災により活動ができない状況の中で、南三陸研修センターが活動の中核としてオープンした事は、今後の地域の交流人口の拡大に大きく貢献するものであり、南三陸町の後光を力強く後押ししてくれるものと期待しております。

全日本空輸株式会社
新村 史代さん

ANA グループは、「地域・社会に新たな価値を提供できる森づくり」を 2012 年から南三陸町で行っています。「ANA こころの森」から出る間伐材は、地元でグッズに変身させて、ANA のお客様にお配りして喜ばれています。
森づくり活動に参加するボランティア社員は、「南三陸研修センター」を地域の拠点として、プログラムを受講し震災の教訓を学んだり、地域の皆様と交流し活動することを通じて、自然との共生の尊さを学ばせていただいています。

レンドリース・ジャパン株式会社
草野 洋美さん

レンドリース・ジャパンのボランティア活動の拠点として南三陸研修センターを利用させていただいています。語り部ツアーをはじめボランティアスタッフの学びにつながる活動プログラムを、共に考えて下さる頼りになるパートナーです。企業ボランティアとして自己満足ではなく真に地元に役立つ活動を行うために。ボランティア一人ひとりが経験を通して学びや達成感を得られるように。これからも南三陸研修センターのお力をお借りできればと思います。

（左上より 50 音順）

財務報告

# FINANCE STATEMENT

南三陸研修センターの2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）における、財務状況をご報告いたします。

## 貸借対照表

2015 年 3 月 31 日現在

単位：円

| 科目 | 当年度 |
|---|---|
| （資産の部） | |
| 流動資産 | 10,477,626 |
| 固定資産 | 115,954,458 |
| 資産合計 | 126,432,084 |
| （負債の部） | |
| 流動負債 | 33,198,324 |
| 固定負債 | 27,000,000 |
| 負債合計 | 60,198,324 |
| （正味財産の部） | |
| 基金 | 30,000,000 |
| 指定正味財産 | 25,168,123 |
| 一般正味財産 | 11,065,637 |
| 正味財産合計 | 66,233,760 |
| 負債及び正味財産合計 | 126,432,084 |

## 正味財産増減計算書

（2014年4月1日～2015年3月31日）

単位：円

| 科目 | 当期 |
|---|---|
| Ⅰ一般正味財産増減の部 | |
| （経常増減の部） | |
| 経常収益 | |
| 事業収益 | 48,869,575 |
| 売上高 | 41,475,573 |
| 県委託収入 | 7,394,002 |
| 寄付金収入 | 19,093,498 |
| 雑収入 | 196,137 |
| **経常収益計** | **68,159,210** |
| 経常費用 | |
| 事業費 | 67,923,632 |
| **経常費用計** | **67,923,632** |
| **当期経常増減額** | **235,578** |
| （経常外増減の部） | |
| 経常外収益 | 0 |
| 経常外費用 | 0 |
| **当期一般正味財産増減額** | **163,578** |
| **一般正味財産期首残高** | **10,902,059** |
| **一般正味財産期末残高** | **11,065,637** |
| Ⅱ指定正味財産増減の部 | |
| 当期指定正味財産増減額 | -7,996,452 |
| 指定正味財産期首残高 | 33,164,575 |
| **指定正味財産期末残高** | **25,168,123** |
| Ⅲ基金増減の部 | |
| 基金期首残高 | 30,000,000 |
| 基金期末残高 | 30,000,000 |
| **Ⅳ正味財産期末残高** | **66,233,760** |

利用者数

# USER

（2014年4月1日～2015年3月31日）

| 宿泊研修施設 | |
|---|---|
| 宿泊者数 | 5,571 名 |

※「人泊数」で表記しています。

| 研修プログラム | |
|---|---|
| 研修プログラム受け入れ者数 | 1,484 名 |

※「のべ人数」で表記しています。
※研修プログラム受け入れ者数は、宿泊しない場合も人数に含まれています。

一般社団法人南三陸研修センター
年次報告書　2014年度

2012年6月20日法人設立

役員　代表理事　勝崎 裕彦
理事　柏木正博
石田順子
阿部博之
高橋修
監事　鈴木清美
遠藤義安

〒986-0782
宮城県本吉郡南三陸町入谷字鏡石5−3
TEL:0226-25-9501 FAX:0226-25-9502

## 運営施設

研修に最適な宿泊研修施設を運営しています。

南三陸まなびの里
いりやど
ms-iriyado.jp

### 南三陸まなびの里 いりやど

〒986-0782
宮城県本吉郡南三陸町入谷字鏡石５番３
TEL:0226-25-9501　MAIL:contact@ms-iriyado.jp

アクセス
《三陸道》登米・東和インターより、東へ車で 10 分
《JR》　BRT 志津川で下車、タクシーで５分
《新幹線》くりこま高原駅下車、タクシーで 50 分

施設概要
客室（和室・洋室）全 14 部屋、宿泊定員 40 名
男女浴室、洗面室、男女シャワー室、食堂（54 席）、交流スペース、
震災関連書籍コーナー、洋室研修室、和室研修室（36 畳）
※洋室研修室備品：机イス（着席人数 54 名）、プロジェクター、
スクリーン、マイク、スピーカー、ノートパソコン、
ホワイトボード（大１台、小５台）
屋外駐車場（約 40 台収容、大型バス可）
館内禁煙、全館無料 Wi-fi 完備